

学校保健

SCHOOL HEALTH

2025. 3 No. **371**

公益財団法人
JSSH 日本学校保健会
JAPAN SOCIETY OF SCHOOL HEALTH

<https://www.hokenkai.or.jp/>

健康教育のさらなる発展にむけて

令和6年度全国健康づくり推進学校表彰式を挙



最優秀校表彰状授与



文部科学省 健康教育・食育課長祝辞 (高橋様代読)



令和6年度 全国健康づくり推進学校表彰式 最優秀校実践事例発表会

主催 公益財団法人日本学校保健会

最優秀校の皆様



日本学校保健会では、2月8日(土)、日本医師会館(東京都文京区)において令和6年度全国健康づくり推進学校表彰式ならびに最優秀校実践事例発表会を開催いたしました。

(関連記事2~3ページ)

左 最優秀校による実践事例発表会

主な誌面

特集 令和6年度全国健康づくり推進学校表彰
最優秀校紹介・講評……………2~3
増加する子どもたちの近視とその対応……………4~5

全国健康づくり推進学校表彰校の実践⑥
宮崎県立延岡しろやま支援学校……………6~7
シリーズ⑩「健康教育をささぐ」～養護教諭の現場から～
性に関する指導・生命の安全教育の実践と校内支援について……………8~9
35年にわたるOTSUKAまんがヘルシー文庫活動……………10~11

回覧

校長	教頭	保健主事	養護教諭	栄養士	学校薬剤師	PTA会長	学校医	学校歯科医	学校薬剤師

【お知らせ】「学校保健」は年6回(奇数月)の発行です。学校保健委員会の参考に学校三師の方々へもご回覧ください。

令 和
6 年 度

公益財団法人 日本学校保健会 全国健康づくり推進学校表彰

— 最 優 秀 校 紹 介 —

栃木県栃木市立寺尾小学校

人権教育実践研究校として 寺尾ブロック健康推進部会2年目の取組

～心身が健康で活力ある児童の
育成を目指して～



人権教育を含む全ての教育活動の基礎となる「心身が健康で活力ある児童の育成」に向け、家庭・地域と連携を深めながら、「夜8時以降ノーメディアデー」や「睡眠改善 WEEK」等の取組を行い、中学校と合同で健康づくりを推進しています。

埼玉県春日部市立上沖小学校

「チーム上沖小学校」で対応する 健康教育の取組

～現代的な健康課題へのチャレンジ～



「学力」と「望ましい生活習慣」は相関関係にあることから、それらを関連付けたスクールプランや学力向上プランを作成しています。それらを基に子どもの豊かな教育の創造について、カリキュラム・マネジメントを学校、家庭、地域が一体となって行っています。

熊本県熊本市立砂取小学校

自他の生命を大切にし よりよく 生きようとする砂取っ子の育成

～安全意識と人とのかかわりを
高める健康づくり～



『生命を大切に^{いのち}する学校』を目指し、様々な学習や活動を「生命・健康・安全」というキーワードで関連付け、自他の生命を守る「安全意識」と緊急時にも助け合えるような「人とのかかわり」を高める健康づくりに取り組んでいます。

神奈川県横浜市立青葉台中学校

互いに認め合い、自己を大切にし、 自分の成長や課題解決に向けて

主体的に行動できる子どもの育成
～学校保健組織活動の有機的な連動を通して～



「授業・人・学びの場のつながり」を大切に、生徒の主体的な保健活動や専門家、外部機関との連携、各教科・分野・領域等横断的な視点で、学校の教育活動全体を通じた組織的な健康づくりを推進しています。

群馬県立玉村高等学校

一人一人が輝ける学校の
活性化を目指して

～生徒、教職員が一体となった
学校保健活動の推進～



「玉高チャレンジプラン」で培った生徒の主体性を学校保健活動にも生かし、家庭・地域との連携を深めながら学校の活性化を目指しています。相互が尊重し合い、心の対話を通じた健康づくりを推進しています。

大阪府立中央聴覚支援学校

生徒が中心となって考え・進める、
学校内での健康づくり推進活動

～中学部生徒による幼稚部・小学部への
「手洗い・うがい」指導～



本校は、幼稚部から高等部専攻科までの学部と寄宿舎があり、行事等は学校全体で取り組んでいます。手話や指文字、音声等を用いた学部間交流で生徒会が保健活動を実施し、学部を超えて互いに学び合うことができるように進めています。

令和6年度の審査を終えて

全国健康づくり推進学校表彰審査委員会小委員会委員長

まつだいら たかみつ
松平 隆光



日本学校保健会では、毎年、健康づくりを推進し、成果を挙げている学校を表彰している。

令和6年度の推薦数は、小学校35校、中学校19校、高等学校2校、特別支援学校5校、合計61校であった。書類審査の結果、61校すべて優良校候補校以上であることを確認し、さらに、優秀校候補校の選定にあたっては、小学校6校、中学校3校、高等学校1校、特別支援学校2校の計12校を選考し、学校訪問を行った。

その結果、栃木市立寺尾小学校は「主な取り組みとして夜8時以降のノーメディアデーと睡眠改善weekがあり、家族が一体となって児童生徒の健康課題の解決に取り組んでいること」、春日部市立上沖小学校は「子どもたちの健康づくりのため、学校保健・学校安全・学校給食それぞれの分野の特色ある実践と、教職員一丸となって健康づくりの推進が図られていること」、熊本市立砂取小学校は「自分だけでなく他者の生命(いのち)も大切にしながら、生涯に渡って安全かつ健康に暮らすことができる資質・能力を育むことを目指して努力していること」、横浜市立青葉台中学校は「保健教育では性に関する指導・福祉・心の健康・薬物乱用防止等、幅広い教育がなされていること」、群馬県立玉村高等学校は「相互が認め合い、自他の表現力を通じて最大限発揮できる特色ある校風に寄与するため、学校行事や教科等と関連付けた保健・安全教育を展開していけるように学校全体が一致団結していること」、大阪府立中央聴覚支援学校は「聴覚障がいをもつ薬剤師や手話ができる歯科医師を外部講師として招き、聴覚障がいをもつ子どもたちに理解しやすい保健教育を実践していること」、が評価され最優秀校となった。その他学校訪問を行った6校は全て優秀校に選定された。

日本学校保健会が毎年実施している「全国健康づくり推進学校表彰事業」は、選考された表彰校を単に顕彰するだけに終わらせることなく、健康づくりの推進校として、その成果を広く全国の学校へ啓発し、多くの学校に実践していただくことを目的としている。

特集

令和の時代を生きる子どもたちの健康課題

第5回/全5回予定

増加する子どもたちの近視とその対応

公益社団法人 日本眼科医会 常任理事 **近藤 永子** こんどう ながこ

はじめに

近年、近視の増加が世界的な問題となっており、2050年までに全世界人口の約半数が近視になるといわれている¹⁾。特に日本では、もともと近視人口が多いとされていたが、コロナ禍以降、学童期の子どもたちの間で近視の進行が深刻化しており、その発症の低年齢化も危惧されている。近視はこれまで眼鏡などで矯正をすればよいとされ、特に問題視されていなかった。しかし、幼小児期から近視が進行し高度近視に至ると、将来網膜剥離や近視性黄斑症、緑内障など視力障害につながる病気の発症リスクを高めることが報告され、少しでもその進行を予防することの重要性が唱えられるようになった。ここでは、現代を生きる子どもたちをとりまく環境と増加する近視とその対応について考える。

デジタルネイティブの子どもたち

令和の時代を生きる子どもたちはまさにデジタルネイティブであり、ともすればその親世代もデジタルネイティブとなっている。近視の原因は遺伝要因だけでなく、環境要因も大きく影響するといわれる。特に、30cm未満の近い距離での作業、例えばパソコンやスマートフォン(スマホ)の使用、読書などを近い距離で行うことが大きなリスク要因とされている。また、屋外活動の減少も近視を助長し、COVID-19の影響でステイホームの環境下において、屋内での近業が増え、近視の増加が顕著になったことも示唆されている。このように現代の子どもたちをとりまく環境は、近視進行を惹起しやすい環境であることは明らかであり、その中でいかに予防していくか、まさに生後から親も含めて対策していくことが必要といっても過言ではない。

令和3~5年度の3年間、文部科学省(以下、文科省)による近視実態調査²⁾が行われ、その結果の一部については『学校保健の動向(令和6年度版)』に記載した。これまでの報告などからも近視進行の一次予防では以下のことが大切である。

1. 積極的な屋外活動：休み時間も積極的

に屋外にでて、平日は1時間半、休日には2時間程度屋外で過ごそう。熱中症や紫外線には注意して、木陰

進む近視をなんとかしよう
~3つの大作戦~

作戦1 画面と目は30cm以上離す

- 画面までは30cm以上離そう
- 背筋をまっすぐに、肘は直角に
- 画面は目線と垂直になるように置こう
- 映り込み防止フィルターを使うともっといいよ

進む近視を止めたいべ!
目と画面、30cmしっかり離そう!

作戦2 30分に1回は、20秒以上遠くを見て目を休めよう!

- 30分画面を見たら、必ず休憩
- 休憩は20秒以上、遠くを見よう
- 窓の外や教室の反対側を見るのがおすすめだよ
- まばたきを意識的にしてみよう

遠くを見ると近視を防げるよ!
20秒だけでもOK!

作戦3 外で1日2時間活動して近視のすすみをおさえる

- 1日2時間は外で過ごそう
- 外遊びは近視を防ぐ効果があるよ
- 帽子や日焼け止めで紫外線対策も忘れずに
- 水分補給もしっかりしよう

外遊びで近視予防!
自かげでもいいのよ!

公益社団法人 日本眼科医会

図 日本眼科医会啓発資料 ギガッこデジたん!
「進む近視をなんとかしよう~3つの大作戦~」

や建物の影でも有効。

2. 近業時間はなるべく短く：近業時は背筋をのばし正しい姿勢で、対象物から30cm以上目をはなす。30分に1回は20秒程度遠くを見て目を休める。

学童期の子どもたちには学校でデジタルデバイスを使用する際の注意点³⁾や屋外活動の推進について、文科省からの啓発資料⁴⁾にも掲載されている。また日本眼科医会ではこれまで子どもたちに少しでもわかりやすく一次予防の具体的な対策をマンガで表現してきた(図)。

子どもたちのヘルスリテラシーを育む

学校保健の現場において、前述したような近視進行予防に対する取り組みを積極的に行うことはとても大切である。さらに、近視進行の若年化や進行予防対策の早期介入が必要とされる現代では、就学前、乳幼児期からの家庭での生活習慣がとても重要となる。

例えば、病院での待ち時間など公共の場でついつい子どもを静かにさせたくてやってしまいがちなスマホなどでの乳幼児の動画視聴。「スマホ子守」などと言われることもある。子どもはすぐ操作を覚え、自分で操作したがるため、腕の長さの短い子どもは大人より近い距離で動画視聴をすることになる。さらに、屋内で過ごす時間が長ければ視聴時間も長くなり、何よりその常態化が危惧される。必然的に屋外で体を動かして遊ぶ時間も短くなるだろう。このようにデジタルネイティブの子どもたちを取り巻く環境は、近視進行予防の点からは非常にコントロールの難しい状態に陥りやすい。ただ、現代の子どもたちにとってデジタル技術は生活に不可欠となっている。そして、デジタル技術をうまく活用し、それにより社会に積極的に参加していく能力「デジタル・シティズンシップ」を身に付ける教育も進められている。今後は幼小児期より親子で年齢に応じたデジタルデバイスの使用について学び、成長とともに子どもたち自身が自律的にコントロールできるようヘルスリテラシーを育むことが、現代を生きる子どもたちには必要である。眼科的には特に近視進行予防という観点からも子どもたちやその保護者に向けた啓発が重要な課題となる。

近視進行予防の今後

これまで海外と比べると遅れていた近視進行を抑える治療法が日本でも認可され、今後はより多くの治療が可能になることが期待される。しかしながら、現時点ではこれらは保険診療外で行われており、すべての子どもたちに等しく届けられるにはハードルとなることが予想される。今後も治療が多くの子どものために受けやすいように眼科医として働きかけていくとともに、前述したような誰でもできる一次予防を早期の段階から取り入れていけるように社会全体に広げていきたい。

おわりに

増加する子どもの近視問題は、学校や家庭、医療機関が一体となって取り組むべき課題である。規則正しい生活習慣の確立、屋外活動の推進、デジタルデバイスの適切な使用管理など、多角的なアプローチが必要である。そして、子どもが就学前、できれば乳幼児期の頃から家族みんなで対策に取り組むことが望まれる。さらに、ヘルスリテラシーの向上に向けた教育を通じて、子どもたちが健全なデジタルライフを送りながら視力を守る力を育むことが求められる。令和の時代を生きる子どもたちが健やかに成長し、未来を明るく描ける社会を目指し、保護者、教育機関、自治体、医療機関の連携が一層重要となる。

- 1) Holden BA, et al.: Global Prevalence of Myopia and High Myopia and Temporal Trends from 2000 through 2050. *Ophthalmology* 123: 1036-1042, 2016.
- 2) 令和5年度児童生徒の近視実態調査 解析結果報告書
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2024/attach/mext_01403.html
- 3) 児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック (mext.go.jp)
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afeldfile/2018/08/14/1408183_5.pdf
- 4) 児童生徒の近視実態調査事業 近視について解説した資料 (A4仕様)
https://www.mext.go.jp/content/20240828-mxt_kenshoku-000037357_01.pdf

全国健康づくり推進学校表彰校の実践⑥

学びを確かなものに、学びをみらいにつなぐ ～歯科保健教育と緊急時対応の取組～

令和5年度最優秀校 宮崎県立延岡しろやま支援学校

1 学校紹介

本校は、平成24年に延岡市にあった知的障がい、肢体不自由、聴覚障がいの3つの特別支援学校を合併し創立された。県内で唯一部門制を採用しており、聴覚障がい教育部門は幼稚部から中学部まで、肢体不自由教育部門と知的障がい教育部門は小学部から高等部までである。校訓の「表現 実践 挑戦」のもと、現在173名(令和5年5月1日現在)の幼児児童生徒が学んでいる。



2 学校経営方針と健康づくり

本校は「心豊かでたくましく地域社会で生きぬく力の育成」を教育目標に掲げている。これを受け、学校保健目標を「生涯をとおして健康で安全な生活を営む態度を育む」としている。これらを具現化するために、保健安全部をはじめとした各校務部や部門、学部で連携を図りながら教育活動を展開し、校内全体で健康づくりを推進している。

3 特色ある取組

(1) 歯科保健活動

① 歯科検診

本校には、障がいや特性により初めての経験や初対面の人が苦手である幼児児童生徒がいる。そのため、歯科検診をスモールステップで練習する「レベルアップカード」を作成している。歯科検診で使用する歯鏡を触ったり、白衣を着た学級担任や養護教諭に口の中を見せたりする練習により、歯科検診に対する恐怖心や不安の軽減を図っている。また、障がいの状態により学級担任が自宅を訪問して授業を行う訪問教育学級がある。訪問教育学級の自宅を学校歯科医、学級担任、養護教諭が訪問し、歯科検診や歯みがき指導などの健康相談を実施している。

訪問教育学級の自宅での
歯科検診

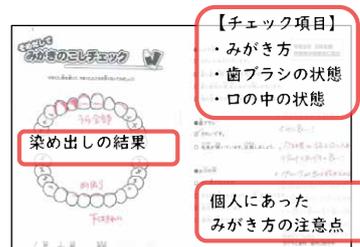
② 歯みがき教室

年に2回、学校歯科医を含む歯科医3名と歯科衛生士14名が来校し、全幼児児童生徒を対象に歯垢染め出しやブラッシング指導を行っている。歯垢染め出しを初めて体験する幼児児童生徒にとっては、恐怖感や抵抗感が強い。そのため、事前に水で濡らした綿棒を歯に塗る練習、ペンで色をつけた歯科模型を歯ブラシでみがき、汚れを落とす練習を繰り返し、歯みがき教室での染め出し体験に臨んでいる。当日は染め出しの結果を「みがき残しチェックシート」に記入する。ブラッシング指導では、歯科模型を使った一斉指導や自分の歯ブラシを直接当ててもらった個別指導により、正しい歯のみがき方を学習する。

歯科衛生士による
ブラッシング指導

③ もぐもぐピカピカタイム

幼児児童生徒が学校歯科医や歯科衛生士と一緒に給食を食べながら、食と歯・口の関係を学ぶ取組である。当日の献立には、学校歯科医考案のよく噛んで食べるおすすめメニューを取り入れている。給食を食べている様子や歯をみがいている様子等を見てもらい、直接アドバイスももらっている。



みがき残しチェックシート

④ 学校歯科医院探検学習

本校の幼児児童生徒の中には、う歯があっても歯科通院への抵抗感や恐怖感が強く、治療につながっていないケースもあった。そこで、う歯の有無に関わらず保護者と一緒に歯科通院できることを目指して、学校歯科医の歯科医院で歯科受診を模擬的に体験する学習を実施している。事前に、歯科医院内の写真を見てどのような場所であるかを学習し、歯科医院まで行くという練習を繰り返した後、当日は、受付から診察、レントゲン室に入る等の一連の歯科受診を体験する。より実際の歯科受診に近づけるため、1人ずつ診察券を作成したり、歯科医院の歯ブラシや紙コップを使うようにしたりするなど工夫をしている。実施後には、小学部6年生は学習の内容を新聞にまとめ、その新聞を保健室前に掲示するだけでなく、5年生への発表にも使用することができている。



学校歯科医院探検学習

⑤ 日常の歯みがき

毎日の給食後には、幼児児童生徒の実態にあった方法で歯みがきを実践できるよう、個に応じた教材を使用し、歯みがきの習慣化を目指している。視覚優位の幼児児童生徒は、歯をみがく順番を示すカードを見ながら実施している。手順の最後には、学級担任の顔写真を載せ、仕上げみがきを自分から依頼できるよう工夫をしている。

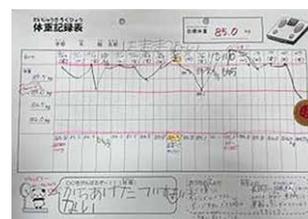
また、医療的ケアの吸引を必要とする児童生徒の中には、誤嚥を防ぐために学校看護師による吸引を行いながら口腔ケアを実施する場合もある。

⑥ 職員のブラッシング研修

本校には給食後の歯みがきで仕上げみがきを必要とする幼児児童生徒がいるため、教職員を対象に学校歯科医からのブラッシング研修も実施している。教職員向けの講話や歯垢染め出し体験により教職員の歯・口の健康に対する意識の向上を目指し、幼児児童生徒への指導の徹底にもつなげている。

(2) 学校保健委員会

毎年、1回目の学校保健委員会で校内全体の健康課題を共有し、課題解決を目指している。令和5年度は「肥満」に関して取り組み、会議の内容や保護者からの質問と学校医の回答などを掲載した学校保健委員会だよりを作成した。他にも、学校医の指導の下、体重の増減を客観的に把握できるように体重記録表を改良し、学校や家庭、医療受診の際などに活用した。



体重記録表

(3) 緊急時対応

幼児児童生徒の学びを安全に実施できるように、日々の安全管理だけでなく、様々な緊急時に備えた対応も行っている。緊急時の体制整備として、アクションカードの設置や全校放送のかけ方の統一を行っている。また、それらを用いて保健安全部の実演による緊急対応の動画を作成し、周知を図っている。他にも、緊急時の連絡先や基礎疾患などが記載されている個人の緊急時カードを作成している。カードは、各職員室や保健室に設置しており、緊急時には関係機関に情報をもれなく伝えられるようにしている。更に消防署とは、緊急度の高い子供たちの情報を共有するだけでなく、個人ごとに割り当てた番号を伝えることで、確実に情報が伝わる工夫をしている。

水泳指導の時期には、学習グループ毎に緊急時対応訓練を行っている。全部で11グループあり、訓練を授業中に行い、職員の誘導に従うことで幼児児童生徒は緊急時の自分たちの動きを学ぶことができる。全ての訓練終了後には、緊急事態に備えて必要な情報や水泳を行う際の注意点を、全職員で共有している。このような訓練は、医療的ケア緊急時対応訓練をはじめとして、計画的に校務部や学部と連携しながら実施している。

4 まとめ

保健安全部は保健分野や安全分野の中核として、歯科保健や緊急時対応などの活動が幼児児童生徒の実生活につながる学びになるよう、何度も改善を講じながら取り組んできている。その結果として、統合前の特別支援学校で行われていた「歯みがき教室」が、現在の延岡しろやま支援学校でも継続され、20年近い取組につながっているのではないだろうか。

これからも心豊かでたくましく地域社会で生きぬく力を育成するために、幼児児童生徒に寄り添い、ともに夢を拓き、保護者とともに成長を喜びながら、健康づくりを推進していきたい。

シリーズ 106

「健康教育をささえる」

～養護教諭の現場から～

性に関する指導・生命（いのち）の安全教育の実践と
校内支援について神戸市立西脇小学校 養護教諭 おくの としこ 奥野 登志子

1 はじめに

本校は、神戸市南西部に位置し、教室から明石海峡大橋を望むことができる海と緑を身近に感じられる地域にある。本年度で開校して48年目を迎え、児童数342名の中規模校である。学校教育目標は「にこにこOK しっばいOK わくわくチャレンジ きらり西脇っ子」をスローガンとして「認め合う子、工夫する子、やりとげる子」の育成を目指している。それを踏まえて子供たちが、自身の身体や生活の問題に気が付き、問題解決に主体的に取り組めるよう学校保健活動を行っている。



2 性に関する指導、生命（いのち）の安全教育の実施

文部科学省から、2015年4月に初めて性的少数者の子供への配慮に関する通知が出され、社会的にも性の多様性について取り上げられることが多くなった。神戸市では、「性に関する指導手引書」を作成し、小学校6年間での発達段階に応じた指導を行っている。令和4年に改訂された第4版には、性の多様性に関する授業例が低学年・中学年・高学年ごとに示されている。

本校の子供たちの様子を見てみると、LGBT当事者が主人公の漫画、アニメ、テレビドラマについて話題になる場面があり、教室には茶色、紺、紫、水色など様々な色のランドセルが並び、一見、性の多様性を理解しているようにも感じられる。しかし、2019年にLGBT当事者を対象に実施された全国調査では、LGBT当事者が性別や性自認について周囲と違うと初めて気付いた年齢は、トランスジェンダー（MTF / FTM）の場合10～11歳という結果があり、LGBT当事者は、いじめ被害、不登校、自傷行為などの危機的行動の経験が高率であるといわれている。そのため、一人で悩む子供をつくらないことを目標に、全ての子供たちが性の多様性への理解を深めるために保健教育を進めている。

3 取組の実際

性に関する指導、生命（いのち）の安全教育を学校保健年間計画に位置付けており、生命（いのち）の安全教育については、6月の水泳学習が始まるまでに全学年で動画視聴やプライベートゾーンに関する授業を行った。

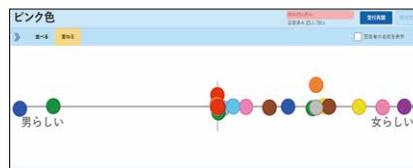
ここでは、3年生「〇〇らしさって何だろう?」、6年生「いろいろな性について考えよう」を題材に、ICT機器を活用した性に関する指導の一部を紹介する。

① 3年生「〇〇らしさって何だろう?」

養護教諭がICT機器を活用するにあたり、学級でのICT機器の利用状況と児童の習得状況を学級担任に確認し、効果的なICT教材となるように検討した。

● 「SKYMENU」 ポジショニングの利用

導入として性別のイメージを問う際に、周囲の目を気にせずに自分の意見を表出できるよう、タブレット端末で匿名での入力ができるポジショニングを使用した。結果を可視化したことで、無意識に「男らしい」「女らしい」と感じ、性に関しての「普通」を決めていることに気付かせ、自分らしさを大切にすることを高めることにつながった。今後は、授業の前後で子供たちの認識の変化を入力し、指導の展開が有効であったか評価していきたい。



② 6年生「いろいろな性について考えよう」

● 「Microsoft Forms」 アンケートの実施

回答を集計、数値化することで児童の価値観、思考傾向が可視化された。また、授業の中でアンケート回答、集計が行えるため事前準備の時間短縮になった。

● 「Microsoft Forms」 テキストマイニングの利用

児童は、タブレット端末使用に慣れておりタイピングも早いいため、振り返りはワークシートを使用せずタブレット端末を使用した。振り返りの記述内容が瞬時に言語抽出されるので、入力直後に表示して学級での意見の共有に利用することができた。また、授業後に記述内容を分析することに時間を要していたが、分析の手間が省けたことは養護教諭の業務改善にもなり、記述入力に所要時間が記録されていることは、今後の授業検討に役立つ情報であった。

性の多様性について正しい知識を深め、自分事として捉えさせたことを通して、異なる意見や立場でもお互いを尊重し、自他を大切にしている行動について考えさせることができた。

指導後は、多くの子供たちに「一人で悩むことのないように」というメッセージを発信するために、保健室前の掲示板に性の多様性に関する掲示物を掲示した。性に関して不安や悩みを感じる子供たちの思いに寄り添い、肯定的で正しい情報となるように作成した。また、学校を訪れた保護者が学習内容を知る機会となった。



4 校内の連携

新年度に、性に関する指導について発達段階、学習状況に応じて教育活動の中で幅広く学習できるように計画立案をし、教職員と意識の共有を図った。教職員の性に関する多様性への意識を高めるために職員研修を行い、更に経験年数の少ない教職員には養護教諭が学校生活における配慮事項について研修を行った。また、本校には通級指導教室が併設されており、発達について専門的な知識をもった教職員がいるため、発達の気になる子供たちの支援方法や、発達段階に応じた指導内容について相談している。

図書館司書と教材の検討をし、子供の実態に合った図書を見つけることができた。また、指導後の図書の時間で図書館司書が、指導内容に関連する本の紹介や読み聞かせをし、関連する図書のコーナーを設置したことで授業後に子供たちが関連する本を借りる姿が見られ、図書館教育の充実につながった。

スクールカウンセラー（以下、SC）と、心の問題の視点から内容を検討しSCがティームティーチングで「生きづらさを感じた時の対処方法」について話をした。その際、子供たちは同性婚が合法の国でのSCの体験を聞き、身近な話として理解した様子だった。



5 おわりに

ICT機器の利用は、多様な子供たちへの視覚支援、個別の配慮になるだけでなく、養護教諭自身の事前準備や事後の分析処理の負担軽減につながった。しかし、日常的に学級でICT機器を使用していない養護教諭が効果的に活用できるのかについては不安がある。子供たちのICT機器利用状況を十分に把握し、学級担任と分担して利用したことで、効果的・効率的に指導を進めるためのツールとして活用することができた。ただ、保健管理をする養護教諭として、ICT化の影響による健康課題やその対応等についても並行して取り組んでいきたい。

また、1時間の授業で知識が定着することは不十分であるため、小学校6年間で系統的な保健教育に継続して取り組み、他の教科などの様々な学校生活場面で指導し、学校全体で多様な性への理解、子供たちが安心できる環境について校内で連携して取り組むことが重要である。そして、普段の教職員の態度や発言で子供たちが傷つくことがないように、教職員の教育力が高まるよう学校組織の中心となって情報発信し続けることが必要である。

指導をする中で、子供たちから「女の子だから～しなさいと言われる」など家庭内で性役割を感じている様子があったことから、子供たちへの知識、理解を深める上で引き続き保護者への情報発信へつなげていきたい。指導後に自分の性に関する悩みを打ち明けてきた子供がいたり、プライベートゾーンについて学習したことが家庭で話題になったと保護者から話があったりした。小学校での指導の意義を実感したとともに、今後も充実した保健教育が実施できるよう努めていきたいと思っている。

～子どもたちの健康を願って～ 35年にわたるOTSUKAまんがヘルシー文庫活動

大塚ホールディングス株式会社
OTSUKA まんがヘルシー文庫

1. 健康をテーマにした漫画を毎年発刊・寄贈

大塚ホールディングス(株)は、社会貢献活動の一環として、「OTSUKAまんがヘルシー文庫」(以下ヘルシー文庫)を発刊しています。グループ横断のプロジェクトとして毎年健康をテーマとした漫画を作成し、全国の国公立小学校、特別支援学校、公立図書館、海外の日本人学校などへ寄贈しています(2000年から6年間は中学校へ寄贈)。1989年の創刊以来、37名の漫画家、日本医師会・日本学校保健会(いずれも監修)、日本小児科医会(推薦)はじめ、日本薬剤師会、全国養護教諭連絡協議会、現場の先生方、各領域の有識者など多くの方のご理解とご協力の下、子どもたちの健康を願って活動を続けてまいりました。現在、各校の保健室や図書室、学級文庫などで子どもたちに愛読されています。また、委員会活動や保健だより、学級だより、授業等にも利用されています。



創刊時からの冊子のラインナップ
(中央は最新巻の「くすりのおはなし」の巻)

2. 創刊のきっかけ

大塚グループは、“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”～世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する～という企業理念のもと、医薬品や機能性飲料・機能性食品など幅広い事業を行っています。1980年代後半、健康に携わる企業として、製品を通じてだけでなくより広い視点で人々の健康に貢献したいと考えていた折、「健康な生活は子どもの頃からの生活習慣に基づき、子ども時代に培った健康への興味や知識がその後の人生に影響を与える」との仮説により、「大切な健康についての話」を子どもたちに楽しく分かりやすく伝える「漫画」というアイデアに至りました。そして、当時は珍しかった「教育現場にまんが文庫を届ける」活動がスタートしました。



1989年の創刊号

3. ヘルシー文庫の特徴

電子ブックでも閲覧可能

ヘルシー文庫は、冊子のほか専用のウェブサイトから直近で発刊した約120作品を電子ブックでも読むことができます。漫画一覧からの検索のほか、運動、食事(栄養)、睡眠、こころ/思いやりといったカテゴリー検索や、漫画家からの検索、子どもたちが大好きなタイプ別診断からの検索など、検索しやすい工夫をしています。URL:<https://www.otsuka.com/jp/comiclibrary/>



ふりかえりとまとめのページを設定

冊子の各章の最後には、クイズやすごろくなどによるふりかえりとまとめのページをつくり、子どもたちが楽しみながら各章のポイントを復習したり、考えを深めたりできるようにしています。



学習指導要領に対応

現場の先生方からの声をもとに、健康学習へのより一層の活用を目指し、学年・教科ごとに学習指導要領に対応した漫画が検索できる学習指導要領対照表をウェブサイトに掲載しています。家庭科、保健・体育、道徳、社会、理科、生活、特別活動に対応する漫画を検索できます。

健康学習活用研修会を開催

授業をはじめ、その他学校生活のさまざまな場面における健康教育でのヘルシー文庫を使った活用提案と実践事例紹介の機会として、各地の教育委員会、学校の協力を得て、毎年「健康学習活用研修会」を全国で開催しています。2024年度は、那覇市と横浜市で開催しました。



児童参加型の誌面づくり

2014年からは、「みんなでつくるヘルシー文庫」として、ポスターや漫画などの形式で児童作品を募集し、漫画家とコラボする児童参加型の誌面づくりをしています。毎年多くの力作が送られてきており、楽しいページができています。



4. ヘルシー文庫の活用実践事例

生活習慣クイズで知識の定着に活用

大阪府枚方市立藤阪小学校

学級文庫や図書室などに設置されたヘルシー文庫から学んだことのアウトプットとして、「生活習慣」をテーマとしたクイズを5・6年生が作成し1~4年生が解く活動や、高学年が低・中学年に向けてスライドを使って説明する機会を設定することで、子どもたちの健康知識のさらなる定着を目指しました。さらに、ヘルシー文庫活用前後の生活習慣アンケートの結果から、ヘルシー文庫が生活習慣の向上に繋がる可能性が分かり、朝食や睡眠といった生活習慣の課題の改善のために、全校へ向けた啓発や家庭への発信も含めて、ヘルシー文庫を活用しながら取り組みを進めています。

電子ブックを授業に活用

神奈川県横浜市立汐入小学校・稲荷台小学校

3年生の保健体育の授業でヘルシー文庫を取り上げました。子どもたちの意見を基に、主人公の生活習慣の乱れに着目・問題提起することで、自分自身の生活習慣を振り返り、さらに運動・食事・睡眠の大切さへの気付きを目指しました。ヘルシー文庫の電子ブックを活用し、教師が児童に読み聞かせをしながら各自の端末に漫画を分割して送付することで、授業の中で電子ブックを効果的に活用しています。



個別の「心の健康プラン」の作成に活用

神奈川県横浜市立高田東小学校

5年生の保健体育の授業の導入でヘルシー文庫を取り上げました。持病を抱える主人公とクラスメートとの関わり場面から心の健康について考え、不安や悩みへの対処方法を学びました。学習の最後には、自分自身の心を健康に保つにはどのようなことを大切にしていけるか、ヘルシー文庫を参考に個別の「心の健康プラン」を作成し、アウトプットを実践しました。一人ひとりが自分の健康に向き合い、ヘルスプロモーションの基礎や考え方を身に付けるために、ヘルシー文庫は各自の健康観に寄り添いながら、楽しく学べる教材として活用しています。



最後に、学級文庫や授業等で使用したいなどヘルシー文庫の活用に関するご要望がございましたら、在庫がある巻につきましては追加寄贈が可能ですので、下記のOTSUKAまんがヘルシー文庫事務局までお問い合わせください。

大塚グループは今後も、現場の先生方のご助言をいただきながら、時節に応じた子どもたちを取り巻く健康課題を取り上げ、児童の健やかな成長の一助となるべく活動に邁進してまいります。

■お問い合わせ先：「OTSUKA まんがヘルシー文庫」事務局 <受付時間> 平日10:00-17:00
TEL：03 5817 8099 FAX：03 6435 3382 E-mail: healthy_comic@dank.co.jp

令和6年度

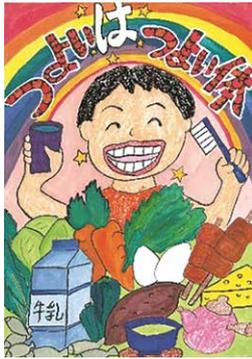
学校健康づくり啓発ポスターコンクール

受賞作品

令和6年度「学校健康づくり啓発ポスターコンクール」に全国から総数2,869点に及びご応募をいただき、誠にありがとうございました。

各部門の最優秀賞作品を使用したポスターは、健康づくり啓発の一環として、全国の公立学校等へ配付を予定しております。

最優秀賞



佐賀県立うれしの特別支援学校
小学部6年 大宅 恭介さん



群馬県伊勢崎市立第一中学校
2年 宮島 妃那さん

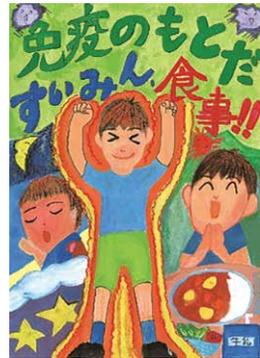


愛知県名古屋市長
工芸高等学校
2年 山岸 千雛さん

優秀賞



埼玉県久喜市立青毛小学校
3年 白石 真理さん



埼玉県さいたま市立常盤小学校
5年 飯島 颯海さん



熊本県熊本市立龍田小学校
6年 角田 あやさん



鹿児島県鹿児島市立紫原中学校
3年 谷牛 莉菜さん



鹿児島県始良市立
帖佐中学校
2年 佐藤 美優さん



千葉県立柏特別支援学校流山分教室
高等部1年 渡邊 麟太郎さん



香川県立高松工芸高等学校
2年 楠 彩美さん



千葉県立成東高等学校
1年 村上 心望さん

最優秀賞・優秀賞作品
はポータルサイトでも
ご紹介しております→



<https://www.gakkohoken.jp/themes/archives/162>

令和6年度公益財団法人日本学校保健会賛助会員

(五十音順・敬称略)

令和7年2月10日現在

本年度も賛助会員にご加入いただき、誠に有難うございました。

特別賛助会員

大塚ホールディングス株式会社
カバヤ食品株式会社
日本コカ・コーラ株式会社
(令和6年12月31日まで)
ベルノ・リカール・ジャパン株式会社
マルホ株式会社
株式会社ミニマム
株式会社メディバルホールディングス
ライオン株式会社
株式会社ロッテ

法人賛助会員

株式会社朝日エル
アサヒグループジャパン株式会社
株式会社 ABI
株式会社オフテクス
科研製薬株式会社
クーパービジョン・ジャパン株式会社
株式会社サンギ
参天製薬株式会社
株式会社三和製作所
株式会社少年写真新聞社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
ビジョンケア カンパニー
中外製薬株式会社
日本アルコン株式会社
バイオジェン・ジャパン株式会社
株式会社メニコン
ロート製薬株式会社
株式会社ワコール

匿名 1 社

学校保健用品等賛助会員

株式会社青井黒板製作所
青山眼鏡株式会社
味の素株式会社
赤城工業株式会社
株式会社アルボース
ウィンバード株式会社
株式会社内田洋行
株式会社エー・アンド・デイ
株式会社 EDUCOM
オムロンヘルスケア株式会社
花王株式会社
株式会社カズサ
河合薬業株式会社
菅公学生服株式会社
株式会社 GLASSART
株式会社コスミックエムイー
株式会社サイバーリンクス
蔵王産業株式会社
シキボウ株式会社
四国化成工業株式会社
株式会社システムディ
株式会社システムリサーチ
勝美印刷株式会社
スズキ教育ソフト株式会社
東京サラヤ株式会社
東京書籍株式会社
東ソー株式会社
東洋羽毛工業株式会社
南海化学株式会社
日産化学株式会社
日本曹達株式会社
株式会社ピーカブー

株式会社文溪堂
森永製菓株式会社
リオンテック株式会社
株式会社両備システムズ

団体賛助会員

公益財団法人神経研究所
全日本学校教材教具協同組合
一般財団法人電気安全環境研究所
一般財団法人東京顕微鏡院
公益社団法人日本眼科医会
JES 日本教育シューズ協議会
一般社団法人日本コンタクトレンズ協会
マイウェルボディ協議会

個人賛助会員

菊池 信太郎
村松 章伊
土器屋 美貴子
菅尾 光子
福下 公子
柏井 真理子
高橋 達行
藤居 正博
宇津見 義一
森口 久子
近藤 永子

匿名 2 名

令和7年度

公益財団法人日本学校保健会 賛助会員ご加入のお願い

本会の賛助会員制度は、子どもたちのために事業活動が続ける本会の貴重な財務基盤の一つです。設立目的、事業に賛同される方々のご加入をお願いいたします。加入のお申込み・詳細はHPまたはお電話にてお問い合わせ下さい。

*本会の賛助会費は、特定公益増進法人制度による会費の税制上の優遇措置を受けることができます。

詳細：<https://www.hokenkai.or.jp/about/support1.html>

学校保健をささえるご支援を
よろしく願いいたします！

特別賛助会員とは・・・

日本学校保健会の活動にご賛同いただいた企業と協働して、保健指導や保健教育に役立つ資料の作成や配付、研修会の共催など独自の学校保健活動を行っています。(マルホ株式会社様共同主催：思春期の皮膚トラブル研修会の開催)



全国健康づくり推進学校表彰校一覧

最優秀校 6校

小学校	栃木県	栃木市立寺尾小学校
	埼玉県	春日部市立上沖小学校
	熊本市	熊本市立砂取小学校
中学校	横浜市	横浜市立青葉台中学校
高等学校	群馬県	群馬県立玉村高等学校
特別支援学校	大阪府	大阪府立中央聴覚支援学校

優秀校 6校

小学校	山形県	舟形町立舟形小学校
	岐阜県	山県市立富岡小学校
	愛知県	安城市立梨の里小学校
中学校	岩手県	二戸市立福岡中学校
	京都市	京都市立栗陵中学校
特別支援学校	岐阜県	岐阜県立大垣特別支援学校

優良校 49校

小学校	秋田県	鹿角市立八幡平小学校
	茨城県	北茨城市立精華小学校
	茨城県	土浦市立上大津東小学校
	栃木県	鹿沼市立南押原小学校
	栃木県	小山市立東城南小学校
	埼玉県	川口市立十二月田小学校
	埼玉県	幸手市立さくら小学校

東京都	練馬区立大泉北小学校
東京都	八王子市立第四小学校
山梨県	甲州市立菱山小学校
山梨県	市川三郷町立六郷小学校
長野県	飯田市立座光寺小学校
京都府	亀岡市立亀岡川東学園
京都府	京丹波町立和知小学校
大阪府	東大阪市立加納小学校
兵庫県	相生市立那波小学校
岡山県	吉備中央町立下竹荘小学校
香川県	綾川町立瀧宮小学校
福岡県	築上町立西角田小学校
佐賀県	白石町立六角小学校
鹿児島県	鹿児島市立東谷山小学校
鹿児島県	南九州市立高田小学校
京都市	京都市立二条城北小学校
北九州市	北九州市立白野江小学校
広島県	広島市立可部小学校
千葉県	千葉市立みつわ台南小学校
堺市	堺市立少林寺小学校
新潟県	新潟市立巻北小学校
岡山市	岡山市立桃丘小学校

中学校	青森県	むつ市立大畑中学校
	山形県	村山市立橋岡中学校
	栃木県	小山市立小山第三中学校
	埼玉県	川口市立八幡木中学校
	千葉県	いすみ市立国吉中学校
	東京都	八王子市立横山中学校
	石川県	小松市立丸内中学校
	石川県	金沢市立城南中学校
	静岡県	磐田市立磐田第一中学校
	愛知県	大府市立大府中学校
	京都府	南丹市立園部中学校
	香川県	東かがわ市立大川中学校
	長崎県	壱岐市立石田中学校
	熊本県	南関町立南関中学校
	鹿児島県	出水市立米ノ津中学校
	堺市	堺市立福泉中学校
高等学校	岡山県	岡山県立玉島高等学校
特別支援学校	富山県	富山県立富山高専支援学校
	兵庫県	兵庫県立西神戸高等特別支援学校
	広島県	広島県立廿日市特別支援学校

令和7年度 全国大会及び各地区ブロック大会等日程 (令和7年2月17日現在)

事業別	大会名	開催日	開催地	会場等
ブロック大会	第72回北海道学校保健・安全研究大会 釧路大会(仮)	令和7年 10月26日(日)予定	北海道釧路市	未定
	第58回東北学校保健大会	令和7年8月7日(木)	岩手県盛岡市	盛岡市民文化ホール 盛岡地域交流センター(マリオス)
	第76回関東甲信越静学校保健大会	令和7年8月7日(木)	千葉県千葉市	TKPガーデンシティ千葉
	第54回北陸三県学校保健研究協議会	(令和9年度)	(富山県)	—
	第46回東海ブロック学校保健研究大会	令和7年11月9日(日)	岐阜県羽島市	不二羽島文化センター
	第47回近畿学校保健連絡協議会	令和7年7月31日(木)	兵庫県神戸市	神戸市立東灘区文化センター
	第69回中国地区学校保健研究協議会	令和7年8月21日(木)	山口県山口市	KDDI維新ホール
	第24回四国学校保健研究大会	令和7年8月19日(火)	徳島県徳島市	あわぎんホール
	第22回九州地区健康教育研究大会	令和7年8月1日(金)	佐賀県佐賀市	佐賀市文化会館(予定) アバンセ(予定)
第76回指定都市学校保健協議会	令和7年7月21日(月・祝)	宮城県仙台市	仙台国際センター展示棟	
全国大会・ 職域(団体)別大会	令和7年度 全国学校保健・安全研究大会	令和7年11月20日(木) 11月21日(金)	神奈川県横浜市	横浜武道館、パシフィコ横浜ノース(予定)
	令和7年度全国学校保健会中央大会	令和7年11月21日(金)	神奈川県横浜市	パシフィコ横浜ノース(予定)
	第75回全国学校歯科医協議会	令和7年11月20日(木)	神奈川県横浜市	パシフィコ横浜ノース(予定)
	第75回全国学校薬剤師大会	令和7年11月20日(木)	神奈川県横浜市	ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル(予定)
	第56回全国学校保健・学校医大会	令和7年11月22日(土)	神奈川県横浜市	パシフィコ横浜ノース(予定)
	第89回全国学校歯科保健研究大会	令和7年10月16日(木) 10月17日(金)	広島県広島市	広島国際会議場
	令和7年度 学校環境衛生・薬事衛生研究協議会	令和7年10月23日(木) 10月24日(金)	群馬県前橋市	群馬会館
	第68回全国学校保健主事研究大会	令和7年7月29日(火)	千葉県	ホテルスプリングス幕張
	全国養護教諭連絡協議会 第31回研究協議会	令和8年2月予定	東京都	未定
	令和7年度 全国学校保健会運営担当者会議	令和7年4月10日(木)	—	オンライン開催
	全国健康づくり推進学校表彰式	令和8年2月7日(土)予定	東京都文京区	日本医師会館(予定)
公益財団法人日本学校保健会事業報告会	令和8年2月予定	—	オンデマンド開催	

※開催日・会場は主催者の都合により変更することがあります。最新情報は各開催事務局または日本学校保健会公式HP「主催・後援行事」をご確認ください。

虎ノ門 (190)

健康リテラシー教育について

最近、がん教育の外部講師を行う機会をいただいた。その時に思ったのだが、健康リテラシー教育をするには、単に知識のみ提供するのではなく、ブルームの Taxonomy で考えて構成するのが良いのではないかと。Taxonomy はご存知の方も多いと思うが、ブルームが第二次世界大戦後に教育内容を分類したものである。改訂版も出ているし、他の学者も独自の分類を提唱している。

20年前に医師の臨床研修制度が変更になった時、教育理論を知らない医師に対して日本医師会は「指導医のためのワークショップ」というものを開催し、研修医に対する指導医を養成した。当時、私は東京都医師会の役員として、このワークショップのタスクフォースを何回も手伝った。Taxonomy もその時に学んだ。その時は「認知領域(知識)」、「精神運動領域(技能)」、「情意領域(態度・習慣)」の三つに分けて学び、以後もっばらその分け方で見えるようになった。

例えば学校歯科保健について見ると、一般目標が「口と歯の健康」で、個別の行動目標が①歯の健康について説明できる(認知)、②歯をきちんと

磨くことができる(技能)、③歯磨きを習慣化できる(情意)と明確で、学習方略も①虫歯の問題点とその予防についての説明(知識)、②実地指導として歯の磨き方指導(技能)、③毎日の歯磨き習慣の育成(情意)の三つが誰にとってもわかりやすいだろう。学習評価は、学校歯科検診による「う歯」の数の経年評価や近隣の学校または自治体単位での「う歯」数の比較で良さそうである。

学校保健の盛んな学校は様々な学習方略を駆使している。健康教育は最終的に持続的な行動変容につなげることだから、児童生徒や保護者にとってわかりやすく、継続性が保たれるような集団的な健康教育や指導が大切である。

医師、歯科医師、薬剤師の学校三師は、それぞれの分野の専門家ではあるが、教育の専門家ではない。学校で提供しやすく続けやすい健康教育を行うには現場の保健主事や養護教諭らの協力と連携が不可欠である。健康リテラシーについて、食育、がん教育、生活習慣病対策、認知症や精神疾患対策が学習指導要領に書き込まれる時代にあって、より効果的な連携を築いてもらいたいと願う。

(会報『学校保健』編集委員会 委員長 ^{ゆみくら せい} 弓倉 整)

(株)内田洋行の通信販売 UCHIDAS

保健UCHIDAS

ウチダス

保健UCHIDAS キャラクター アヤコ先生
保健UCHIDAS キャラクター キューちゃん

保健室でお使いになる商品、お役立ち商品を集めて別冊化しています!

240ページ
2025年
約3,000
アイテム掲載!

衛生材料 保健室 はもちろん!
養護の先生がよくお使いになる商品に掲載しています!

洗面所・洗濯用品 清掃用品 トイレ用品 ティッシュペーパー・タオル
キッチン用品 特別支援 事務用品

※保健UCHIDASが未着の場合は、事務ご担当者、または販売店にご確認ください。

新たに特別支援教育用カタログ発刊!
特別支援UCHIDAS
学習サポート商品、コミュニケーション教材等を掲載しておりますので、ぜひ、ご活用ください!

フタバ先生
フタバです。よろしくお願ひします。

■ウチダスのしくみについて

- 学校様よりご注文(WEB・FAX)でいただいたご注文は、当社倉庫より配送されます。
- ご注文商品の代金は最寄りの担当販売店へお支払いいただきます。

学校 ← ご請求
代金のお支払い → 販売店
商品のお届け ← UCHIDAS
ご注文 WEB・FAX → UCHIDAS

ウチダスは(地域有力販売店)と「内田洋行」の共同事業です。

お問い合わせはこちら
株式会社内田洋行 / 教育機器事業部 ウチダス事業グループ
ウチダスお問い合わせセンター TEL ☎0120-757-969
受付時間 午前9時~午後5時(土・日・祝日を除く)

www.uchidas.net

送料無料 インターネットショップ/FAX
PM5:00までのご注文を
当日受付
備き方改革法により、2024年4月1日以降、配達にお時間や、日数がかかる地域が出る可能性がございます。

公式LINE
友だち募集中!
LINE ID @uchidas

スポーツも、勉強も、遊びも頑張っている小中学生をメニコンは応援しています! 



育ち盛りの子どもの瞳について、
楽しく学べるコンテンツが盛りだくさん!



詳しくは
コチラをCHECK!

初めての
コンタクトレンズ
お悩み相談

子どもの視力の
正しい知識
について



◆日本学校保健会推薦用品

ニージェのゴア®羽毛掛けふとん・合掛けふとん・肌掛けふとんは、
日本学校保健会の推薦用品です。

 **東洋羽毛工業株式会社**

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺2-26-5

お客様相談室 0120-410840

<https://www.toyoumo.co.jp>

コーポレートサイト▶



活用していますか? 保健教育のモデル授業動画



中学校第3学年 保健体育科(保健分野)「健康と環境(熱中症)」より



中学校第2学年 特別活動(学級活動)(2) ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応「性情報への対処」より

日本学校保健会では文部科学省補助事業として、学習指導要領に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた保健教育の授業の進め方について小・中・高等学校を対象としたモデル授業動画を作成・公開しています。指導案もダウンロードできるので授業展開にお役立てください。

動画・指導案はポータルサイトへ▶
<https://www.gakkohoken.jp/health-management-and-health-promotion/>



令和6年度は…

- 小学校**
特別活動(学級活動) 第5学年「視力と健康」
- 中学校**
特別活動(学級活動) 第3学年「薬物乱用防止(オーバードーズ)」
保健体育科(保健分野)
第3学年「健康と環境(熱中症)」
- 高等学校**
保健 第2学年「保健・医療制度及び地域の保健・医療機関(献血)」
を3月末頃公開予定!